

三朝温泉病院 リハビリ通信

骨粗鬆症マネージャー2名誕生

【骨粗鬆症マネージャー制度とは・・・】

骨粗鬆症の予防・診断と治療を提供し、広く社会啓発活動を行うことで、超高齢社会における健康格差の縮小と健康寿命の延伸に貢献することを目指し、「骨粗鬆症リエゾンサーブिस」の役割を担い、骨粗鬆症に関する知識を有するメディカルスタッフを学会が認定する制度です。病院・自治体・教育機関などに所属して実際に医療・教育・保健分野で活動している保健師・理学療法士・薬剤師などの国家資格を有する者が取得できる制度です。

【骨粗鬆症マネージャー取得のきっかけ】

三朝温泉病院は整形外科を受診される高齢者が多く、骨粗鬆症の疑いがある患者さんが沢山おられます。しかし専門知識を持ち患者さんに関わることでできるスタッフは少なく充分な関りが出来ていないと感じていました。以前から森田医師にリエゾンについてお声がけいただいたこともありましたが、自身も興味を持っていたので資格取得に向け挑戦しようと思えました。私達が資格取得することで、骨粗鬆症へ興味を持ってもらい、その延長線として資格取得希望者が増え後輩のステップアップに繋がれば幸いです。

【取得に向け苦勞したこと】

資格取得は学会参加と研修参加で受験資格が得られ、試験の合格率も高いので、比較的資格取得のハードルは低いと思います。国家資格取得者という条件はありますが多職種で資格取得が可能です。院内多職種連携を行いながら患者さんへ還元していけると思っています。

【今後の抱負】

現在は、院内での骨粗鬆症患者さんへの関わり方マニュアルを作成中であり、2019年度より運用開始していければと考えています。骨粗鬆症は死亡リスクと関連性が深いことを一般の方々に周知させるには至っておらず、その結果骨粗鬆症に対して服薬率が低いことが問題だと言われています。まずは骨粗鬆症に対して服薬率の向上を図っていくことが課題だと考えています。

そして我々理学療法士としては、『骨と運動』の重要性を広く理解していただけるように院内・院外で活動していかなければと考えています。



●伊藤隼PT

●森田鉄二PT

発行日
令和元年5月7日
Vol 6
発行責任者:山根隆治

認知症啓発活動の取り組み

RUNTOMO 2018

作業療法士 松本 生

「RUNTOMOとは・・・」

認知症の方やその家族・支援者・一般の方が1つのタスキを繋ぎリレーをしながらゴールを目指す認知症啓発イベントです。
2018年7月～11月まで全国37都道府県で実施され約二万人のランナーが参加しました。RUNTOMOをきっかけに、認知症の人が地域の人と出会う一歩に繋がったり、これまで認知症に関心がなかった人が何かに気付くきっかけになったり、タスキを繋ぐという『日常的』な体験・出会い・気付きから認知症の方をはじめ誰もが暮らしやすい地域づくりを目指す活動です。

「鳥取県の主な活動内容紹介」

鳥取県では10月21日に東・中・西部のエリアに分かれてタスキリレーを行いました。私は中部エリアを担当し、企画から参加し運営の部分でも主体となって関わることが出来ました。倉吉の大きなイベントである『福高祭』ともコラボし、多くの一般市民の方も巻き込んで白壁土蔵群周辺を回りながら認知症の啓発を行いました。

「RUNTOMOを通じて感じたこと」

私はこの活動を通じて、中部地区の仲間意識や絆の強さを特に感じる事が出来ました。認知症啓発の考え方に賛同していただき、『福高祭』のイベント内容に沢山反映もしていただきました。RUNTOMOのテーマカラーであるオレンジをポスターや風船の色に取り入れていただいたり、ゴールの際には平井知事もタスキを受け取っていただき認知症啓発に一役買っていただきました。2019年度も4月14日の倉吉春祭りや10月にもイベント企画中です。これからも懐が深い中部地区で認知症をキーワードの一つにまとめ、認知症になっても暮らしやすい街』としてイベントを盛り上げていこうと思っていますので、多くの皆さんにご理解・ご協力よろしくお願致します。

【新人さんいらっしゃ～い】

◎氏名

西東 佳奈 (さいとう かな)

◎ニックネーム

『かなちゃん』

◎趣味・特技

お菓子作り・カフェ巡り
バレーボール

◎抱負

まずは、病院の仕事に1日でも早く慣れるように頑張ります。またクライアントに作業療法について分かりやすく説明できるようになることや笑顔を絶やさずに接していけるように頑張りたいです。

◎アピールポイント

元気・笑顔



『障がい者スポーツと私』

理学療法士 松本厚一

【鳥取県における障がい者スポーツの実態】

鳥取県内の障がい者がスポーツ活動を通じて心身の健全な成長を図り、自立と社会参加を促進するとともに共生社会の実現に寄与することを目的に活動を行っています。我々理学療法士は、競技スポーツからレクリエーションまで年齢・性別・障がいの程度にかかわらず、様々な目的に応じて障がい者の社会参加をコーディネートしています。障がいをもってスポーツをしている仲間の声としては、『競いあえる場であると同時に勝ち負けだけではなく、お互いを称えあえる時間』『自分を輝かせることが出来る場所』などの声が聞かれスポーツを通じて体力の維持・向上を図りながらも、目標に向かって努力したり、単に楽しみながらスポーツを行っている方など様々です。

【中部障がい者プールのご案内】

『水泳＝泳ぐ』のみではなく水の力を使ってリラクゼーションを図ったり、



リハビリテーション目的の歩行も可能です。中部障がい者水泳教室は月2回倉吉未来中心にある市民プールで開催し、誰もが楽しく運動が出来るようにサポートしています。私もそのスタッフの一人として参加しています。内容としては体力や健康状態に応じてスポーツに慣れ親しみ、誰もが楽しめる水泳・水中運動を中心に行っています。参加メンバーの中には、泳ぐ練習を継続して行うことで体力の維持向上につながっている方もいます。詳しくは倉吉未来中心のホームページをご覧ください。

～回復期リハビリテーション病棟協会 第34回研究大会に参加して～

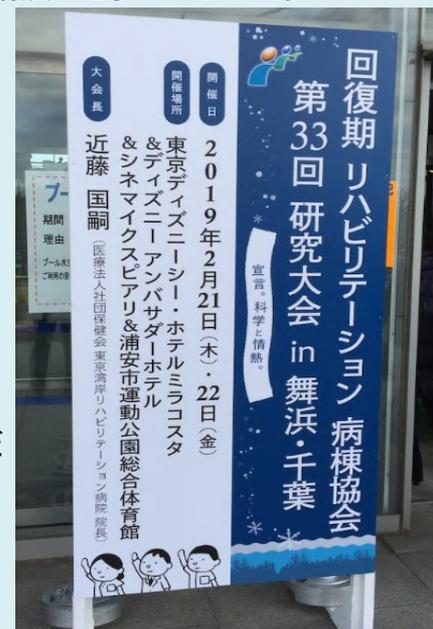
主任回復期療法士 井尾政美

2月21日～22日にかけて千葉県で開催された『回復期リハビリテーション病棟協会研究大会』にリハビリテーション科スタッフ2名・看護師1名で参加してきました。今回のテーマは『宣言・科学と情熱』ということで、最先端のリハビリテーションがふんだんに紹介され、それらを情熱をもって実践する・していくという意味が明確に打ち出された熱気あふれる大会でした。医師・リハビリ関連職種・看護・医療ソーシャルワーカー・介護と多岐にわたる参加者があり、セッション数も膨大なものでした。

回復期リハビリテーション病棟は、様々な職種が協働して患者さんのリハビリテーションを援助し、生活場面への橋渡しをするのが主な役割です。自職種の役割をどのように深めていくかと、他職種と如何にお互いの専門性を引き出しつつ良い協働関係を築いていくかの両方を極めていくことが重要で、私自身も日々の業務目標としています。そのため今大会の数あるセッションの中から特に『リハビリスタッフと生活動作介入』『病棟を挙げた余暇活動への取り組み』など病棟全体の取り組みについての研修や、敢えて他職種委員会主催の研修へ参加し、他職種への理解や一つの職種ではかなわない総合的な介入について学びが深まるよう心掛けました。また医師と弁護士の資格を持つ講師による『弁護士から見たリハ病棟の医療安全』という大変興味深い講演にも参加しました。

自分自身の技術を磨くことはとても大切ですが、自分ひとりで患者さんを治せるわけではなく、他職種の力あってこそリハビリは進むものだと思います。回復期病棟に勤務していると、互いの専門性を最大限引き出し活かし合い、補い合うことで何倍も良いリハビリ環境を提供することが出来ることを日々実感します。

そして特に回復期リハビリテーション病棟では、リハビリスタッフが如何に患者さんの生活場面に介入し、看護スタッフと患者さんの能力を共有していくか、生活場面で発揮できるよう協力していくかという点において、まだまだ成長が必要であると考えています。今回得た知見を当病棟にどのように適用できるか日々模索しながら、よりよいリハビリテーション環境を構築していけるように活動していきたいと思っています。



◎備品紹介 【姿勢保持式ティルトリクライニング車いす】

図1の車いすと図2の車いすをご覧ください。どちらも重度の身体障がいをお持ちの患者さんに使う車いすです。当院にはどちらの車いすもありますがどのように使い分けるか皆さんはご存知でしょうか？

図1は『リクライニング式車いす』と呼ばれ、背もたれがリクライニングすることでほぼ寝た時と同じ状態に倒すことができます。

一方図2は『ティルトリクライニング式車いす』と呼ばれ背もたれのリクライニング機能に加え、座面が揺りかご状にスイングしながら後方へ傾くティルト機能が付いています。今までも当院にはこのタイプの車いすは3台ありましたが、このたび姿勢保持機能をより高めたティルトリクライニング車いす2台購入していただきました。

では本題に戻りまして、この2種類の車いすの違いはどこにあるかということですが、図1のリクライニング式車いすは主にストレッチャーと同じです。患者さんを搬送するための道具に過ぎません。言い換えれば『車いす』と名前はついていますが、椅子の機能はほぼ無いと思ってください。この車いすに座って過ごしていると、お尻が前方に滑り落ちてきて褥瘡(床ずれ)の危険性は高まり、また不快な思いから身体の緊張は高まり、姿勢は崩れ変形を助長すると言われています。重度な方ほどこの車いすに座っての生活は避けなければなりません。

図2のティルトリクライニング式は座面がスイングすることで、お尻もずれることなく大腿部と背部で体重を受けることで安定した座位姿勢を保つことができます。離床を進める目的で重度の方を車いすに乗せる際は、迷わずこちらの車いすを選択してください。

今回購入していただいたティルトリクライニングは『コンフォートタイプ』でこれまでのタイプに比べ、より座位での快適性を求めたモデルであり安定した座位姿勢を提供することができます。使用に関しては担当のPT・OTにご相談ください。



図① リクライニング式車いす



図② ティルトリクライニング式車いす

<編集後記> 平成から令和へと元号も変わり、『働き方改革』の名のもとに仕事に対する考え方・働き方も変わろうとしています。その中で働く我々も時代に取り残されないように柔軟な発想と、臨機応変に対応できる適応力を身につけ『すべては患者さんのために』を合言葉に、病院の発展に貢献出来るプロフェッショナル集団として成長していきたいと思っております。

文責 山根 隆治